



みなさん、こんにちは。コープさっぽろの吉田千恵です。前回、「組合員活動をしています！」と自己紹介させていただきましたが、六月の総代会を持ちまして組合員理事を退任いたしました。今度は、同じくコープさっぽろの組織本部でこれまでの経験を活かしながら頑張つてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

新体制で新年度がスタートしました

組合員活動委員会は、二〇二四年三月二日に新たに四地区で新委員長が誕生し、新体制でスタートしました。

組合員活動を進めるにあたり、重要なもののひとつが、月に一度全道から一四名の組合員理事が集合して行われる「活動企画委員会」です。この会議では、全体に関わる内容や各分野（食や環境など）に対して提案と報告、討議がなされ、各

地区委員長はその内容すべてを地区へ持ち帰り、それぞれの地区活動に活かしています。

前回もお話しましたが、活動は全道一の地区（函館・室蘭・苫小牧・南空知・札幌西・札幌東・小樽・旭川・帯広・北見・釧路）に分かれ、更に各地区内の二〜四つのエリア委員会と呼ばれる活動グループで地区の活動計画を具体化していきます。以前は、全道一斉に動くのが難しい、地区によって環境が違つたため同じ動き方ができないなどの声が聞かれていました。地域性や委員の数などに合わせて活動を考え具体化することは重要なポイントです。

新しい組合員活動

コープさっぽろは、二〇〇〇年代に「釧路市民生協」・「宗谷市民生協」・「道央市民生協」・「コープどうと

う」・「コープ十勝」と統合。同時に組合員活動も統合されました。「生協が好き」という共通の思いがありながらも、各生協の違いや戸惑いの中でさまざまな討議がなされ、「自主的な活動を！」を合言葉に、ゼロからの再出発になったそうです。

私が札幌東地区東エリアの委員として活動に加わったのは、この数年後でした。活動拠点の店舗に、週に三〜四回午前中に集まります。子どもが学校に行っている間に活動でき、学校が休みの時には、子どもを連れてくることもOK。夏休みや冬休みには、子ども達の賑やかな声が事務所に響いていました。これは今も変わらない光景です。

活動は、基本的に「食」と「くらし」の生活全般に関わることに興味・関心を持つことから始まります。この一〇年の間では「ゲノム編集」・「子どもの貧困」・「子ども・地域食堂」・「プラス

チック問題」・「SDGs」など初めての耳にするものもあり、学習会を開き学ぶことから始めました。その学習会（ワークショップ）をきっかけに大きな活動に発展したのが、「プラスチック問題」です。

始まりは一年に一度、全道の活動委員が札幌に集まる「全道組合員活動委員交流会」でした。全道組合員活動委員交流会は、午前中から始まり、お昼を挟んで一五時頃に終了となります。お昼は運営側でお弁当とペットボトルのお茶を準備するのが恒例でした。二〇一八年はカードゲームを通してSDGsとは何かを学び、翌二〇一九年はSDGsの理解を深めるワークショップを実施しました。

このとき、「せっかくSDGsを勉強するのだから、ペットボトルのお茶をやめて、マイボトルの持参を呼び掛けてみようか？」ということになりました。ペットボトルの使用削減になり、何よりプ

ラスチック問題について考える機会になります。前泊で大きな荷物を持って札幌に来る委員もいる中で、果たしてどこまで協力してもらえるのか不安ではありましたが、しかし、当日集合してみると、参加者全員がマイボトルを持参してくれたのです。「これはこのまま一回だけの取り組みで終わらせるのはもったいない、マイボトルを持ち歩き、ペットボトル、プラスチックの削減につなげる取組みをしたい！」ということから、『だから、マイボトルエコ宣言』を始めることを決定しました。

しっかり思いを伝えたいとボトルに貼るステッカーを作り、組合員さん一人ひとりに趣旨を説明したうえでステッカーをお渡しすることに決め、準備を進めました。しかし、その直後に「コロナ禍」となってしまい、対面でお話し、ステッカーを手渡しする機会はなく、活動自体が止まってしまう危機となりました。

「だから、マイボトルエ」宣言

「だから」という言葉には、私たちの
思いと取組みの趣旨が詰まっています。

・プラスチックゴミを減らしたい

・マイボトルを持つことで、ちょっとだけ社会貢献

・一人ひとりの小さな行動で、「北海道の海を守りたい」



マイボトルスタートメンバー（組合員理事）



川でもゴミ拾い

ただ「マイボトル」を持とう!という
だけではなく、視点を変えた内容での学
習会を開き、なぜプラスチック問題の取
組みが必要なのかを考え、行動してみま
した。「二〇五〇年には海の魚の量より、
プラスチックごみの量が増える???」
街で、川で、海でゴミを拾ってみる
と問題が沢山見えてきました。全道の各
地区でも、ゴミ拾いにとどまらず、ごみ
処理場見学、地域の指定ゴミ袋調べ、プ
ラスチックストローに代わるストローの

調査、マイクロプラスチック調査など、活動の幅が広がり、理解も深まってきました。

そんな活動を続けていた二〇二一年の春、私たちの活動がコップさっぽろの社内報で取り上げられ、大きな話題を呼びました。



社内報記事



海のクリーンアップ

そして店舗には、ペットボトル回収機とマイボトルに給水出来る給水機が時と同じくして設置されていたのです。

「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！」

二〇二一年秋、『だから、マイボトルエコ宣言』は組合員活動から、コップさっぽろをあげての『Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦！』へとつながっていきます。

初年度は全道四四か所、参加者約三、〇〇〇人で始まったこのイベントも、四回目となる今年は全道四七か所、一、〇〇〇人を超える方にご参加いただく大きな清掃イベントとなりました。



コップ未来の森 植樹

「プラスチックは悪者なの？」

- ・店舗でペットボトル飲料を売っているのに、買ってはいけないの？
- ・ペットボトルは悪者なの？

組合員さんからは、こんな意見も出てきました。ペットボトルやプラスチック製品は、安価で軽くて丈夫、加工しやすいことから、さまざまな商品となり、私

たちの生活になくてはならないものになっています。

洞爺湖サミットを機に始まった「レジ袋有料化」。鞆の中に必ずマイバックを入れて持ち歩くのが習慣になりました。コープさっぽろのお店でレジ袋を辞退することで「〇・五円」が『コープ未来の森づくり基金』に積み立てられ、北海道の森づくりに役立てられています。植樹や育樹に目が向いてしまいがちですが、マイバックの使用はレジ袋・プラスチックの削減にも大きく貢献しています。

道庁の「北海道の食の安全・安心委員会」でも「プラスチック問題」について意見が出されたことがありました。マルチシート、ビニールハウスなど農業には多くのプラスチック製品が使われています。どれも必要不可欠なものが多く、環境に配慮したプラスチック製品への対応はそう簡単ではありません。プラスチックは決して悪者ではなく、使用削減と適

正処理を心がけることが大切なのではないかと思っています。

環境問題と向き合ってみると、身近なことばかりで、日頃のちょっとした行動で環境への負荷を小さく出来ること、森だけ、海だけ、畑だけの問題ではなく、すべてはつながっていることに気がきました。

「木を見て森を見ず…」

幼稚園勤務時代にお世話になった園長先生が「木を見て森を見ず、森を見て木を見ず」とよく仰いました。クラスをまとめていくには、「個々の子どもだけを見ているとクラス全体が見えなくなる、クラス全体だけを見ていると個々の子どもを見落としてしまう」。何かあると私はこの言葉を思い出します。

吉田千恵さん

1966年宮城県生まれ。

札幌の短大(保育科)卒業後、幼稚園勤務。子どもの小学校入学を機に、コープさっぽろで組合員活動を始める。

2021年から北海道食の安全・安心委員会副会長。

夫・双子の息子・実母・猫のジミーの5人と1匹家族です。



季節は夏ですね。活動では、生産者交流が盛んになる時期です。次回はそんなお話が出来たなと思います。

レジ袋辞退で積み立てられた基金をもとに、今年も各地で植樹活動が始まりました。「楽しそうだから参加してみようかな」。是非、ご家族、ご夫婦、お一人でもお気軽にご参加ください。参加してみると、気が付きが沢山あると思います。